

学びの極意

学びの極意

あの学校はどのように多くの人材を育成しているのか
その秘密に迫ります！

第18回 秋田県立秋田高等学校

全国各地の学校に直撃訪問し、生徒たちは日々どのような環境で学んでいるのか、その特長や魅力、秘密を探るこの企画。

第18回は、1873年(明治6年)開校という全国でも有数の歴史の長い学校の一つである秋田県立秋田高等学校。秋田市内を一望する高台にある校舎で生徒たちが文武両道の高校生活を送っている。その学びの極意を、同校の校長を務める安田浩幸先生に伺った。

秋高といえば「自主自律」

自分たちで考え、実行する三大大行事

当校では開校以来、「自主自律」「文武両道」を掲げ、その精神は現在まで受け継がれています。「自主自律の姿」としては、秋高三大行事が挙げられます。運動会・秋高祭(文化祭・学級対抗(スポーツ大会)の3つの行事の中で、生徒会総務と行事企画管理室という組織が中心となり、生徒による実行委員会などが企画立案から当日まで

日の運営までを行っています。教師が関与するのは合同企画委員会という場で企画の趣旨や安全面を確認するときくらいです。

特に秋高祭では、毎年テーマとなる理念を決め、それに沿って企画を立てます。かつて秋高祭でプロレスの企画が生徒から出されたときは、理念と合致しないということで一旦は却下されました

「文武両道」学校は人間としての能力を伸ばす場所

生徒たちが全力で取り組んでいるのは学校行事だけではなく、日々の生活でも同様です。合同企画委員会で教師を納得させて企画を通していただくことがあります。様々なアイデアを提案し、

生徒たちが全力で取り組んでいるのは学校行事だけではなく、日々の生活でも同様です。合同企画委員会で教師を納得させて企画を通していただくことがあります。様々なアイデアを提案し、



校長 安田浩幸先生

秋田県立秋田高等学校

【プロフィール】

1979年、秋田県立秋田高等学校を卒業。新潟大学卒業後、1984年より数学教師として秋田県内各地の高校で教鞭を取る。1994年から2002年までの8年間、秋田高等学校に赴任。その後は秋田県教育庁、秋田県立大館国際情報学院中学校・高等学校校長等を経て、2016年4月秋田県立秋田高等学校校長となる。



1873年(明治6年)、洋学校として創立。1882年(明治15年)秋田中学校と改称する。1951年(昭和26年)男女共学化。1953年(昭和28年)秋田高等学校と改称を行った。秋田駅前旧校舎から1962年(昭和37年)に現在地へ移転。1968年(昭和43年)に理数科を設置、また1971年(昭和46年)には着装自由化が行われた。2013年(平成25年)に創立140周年を迎えた。2016年の大学合格者数は東京大学8人、東北大学43人、秋田大学50人など。

アクセス/JR秋田駅下車徒歩30分
所在地/秋田県秋田市手形字中台1番地 TEL/018-832-7200

進学校での実績は珍しいのではないだろうか。運動部だけではなく文化部の活動も盛んで、こうした勉強以外の能力も伸ばすことができる環境があるのも当校の魅力だと思えます。高校は受験のためだけに勉強する場所ではなく、人間としての能力を伸ばす場所です。大学は人生における単なる通過点であり、社会に出てからどんな力を発揮し、どんな生き方をしたいか、どんな場所になりたいか、

先輩から後輩へ受け継がれていく伝統「北雄合宿」で先輩の歩みを知る

このような当校の校風は長い時間をかけて、先輩から後輩へと受け継がれ、出来上がってきたものです。例えば、1年生は入学後の生徒会オリエンテーションで、着装の自由化が実現した経緯について話を聞かれます。当校は秋田県内の全日制高校では唯一、私服通学を認めています。これは1969年に生徒から提案され、長い時間をかけて先生と生徒たちが侃々諤々の議論をして、2年後に実現し、現在もなお実証期間として続いています。当時の生徒総会での議論の様子を録音したテープが残っていて、今でもオリエンテーションで新入生に聞いてもらい、そのうえで着装自由化というのは先輩たちが勝ち取った自由で

いくかが重要です。そのため授業でも「自分で課題を見つけ、解決する力」を伸ばしていくことを目標としています。校舎は秋田杉をふんだんに使い、広々としたスペースがあちこちにあり、生徒がいつでも先生に質問ができるよう、各教科の準備室周辺にはテーブルと椅子があり、休み時間や放課後などはそこで先生に質問ができる場所になっています。



- 1 秋高三大行事のひとつ「運動会」。棒倒しは、騎馬戦とともに定番競技である。
- 2 創立以来、夏の甲子園に19回出場した硬式野球部。全国大会への出場回数は県内最多を誇る。
- 3 三大行事の中核「秋高祭」には、さまざまな企画・展示に全校生徒が一体となって取り組む。
- 4
- 5

未来の秋田を支える人材を育てたい 身につけて欲しい3つの力

秋田県立秋田高等学校校長 安田浩幸先生

これからの時代を生き抜くために必要なものは「強い心」、「発想力」そして「仲間との絆をつくる力」の3つだと私は考えています。



解決が困難な問題や人間の力が及ばないような大災害に直面したとき、くじけずに立ち向かうには「強い心」が必要。本校の生徒は学校行事や部活動、そしてもちろん勉強にも3年間必死で取り組み、それを成し遂げることで自然に「強い心」が養われているのだと確信しています。

「発想力」については、8年前から「知の探究コンテスト」を実施しています。1、2年生が4、5人でグループを作り、自分たちで見つけた課題についての研究発表を行います。そしてクラス代表による決勝が行われ、全校生徒の前でプレゼンテーションを行います。順位が決まります。過去の最優秀賞をみると、「The 選ばれし席」授業中に当てられる席の分布と確率の探求」や「法的観点から捉える猿蟹合戦」などのグループもユニークなテーマで探究を行っており、生徒たちの「発想力」には毎年感心させられます。

また最後の「仲間との絆」については、部活動はもちろん学校行事においても、学年を縦割りにして行う運動会では先輩と後輩が、そして秋高祭や学級対抗では部門やクラスの仲間と一緒に、目標に向かって努力を重ねる素晴らしさを経験します。このような活動を通して「絆をつくる力」が育まれ、生徒にとって一生の財産になっていきます。世界で活躍できるグローバル人材を育てることはもちろん、ふるさと秋田を愛し、秋田の未来を支える人材を育成することも同じくらい重要だと思っています。世界で起きている問題や秋田が抱える人口減少などの課題を解決するためには、誰もが考えるようなありきたりの方策では難しい。新しい発想力を持ち、仲間と力を合わせ、あきらめない強い心で、問題解決に果敢に取り組んでいくことのできる生徒を育てたいと考えています。